

02 施工BIMの基本的な考え方

8. 施工BIMの作業工程

ここでは、施工BIMを進めるにあたって、全体の流れを以下の6工程に分けて説明します。



ここがPoint

- ☑ 事前準備ではBIM担当者を決める。
- ☑ キックオフ会議では関係者にBIM使用目的を周知する。
- ☑ 調整会議では工事工程に沿ってモデルの進捗を確認する。



5. 施工BIMの進め方

(1) 施工BIMの作業工程

作業所内で施工BIMを進めるための作業について、時系列順に大きく以下の6つの工程に分けて説明します。

- ・工事工程と作業工程
- ・事前準備
- ・キックオフ会議
- ・BIM調整会議
- ・フォローアップ会議
- ・水平展開

(2) 工事工程と作業工程

まず、BIMを利用することにより効率化できそうな作業はどこかを検討します。効率化できそうな目的が決まったら工事工程と照らし合せ、無理のない計画か照合します。実際の工事工程に合せ施工BIMの作業工程を作成します。この作業工程には「いつまでに、誰が、何をするのか」の目処を明確にしておきます。

(3) 事前準備

事前準備では主に以下の6項目を検討します。検討から導き出された結果は、BIM実行計画書、BIMプロセスマップなどにまとめ、キックオフ会議等で確認を行います。

① 利用目的の設定

利用目的に応じて「BIMモデルを何で作成して、どのように見せるか」の検討をします。

BIMモデル作成作業に必要な機器と利用BIMソフトの検討の根拠となります。

② 実施内容の設定

利用目的を達成するために、具体的な実施作業の内容を検討します。

③ 実施工程の立案

具体的なBIM実施作業内容の検討終了後、工事工程と比較し、実施工程の立案を行います。

④ 作業体制の構築

工事工程に合せBIM実施作業を進めるため、体制の検討、構築を行います。

⑤ 作業環境の検討

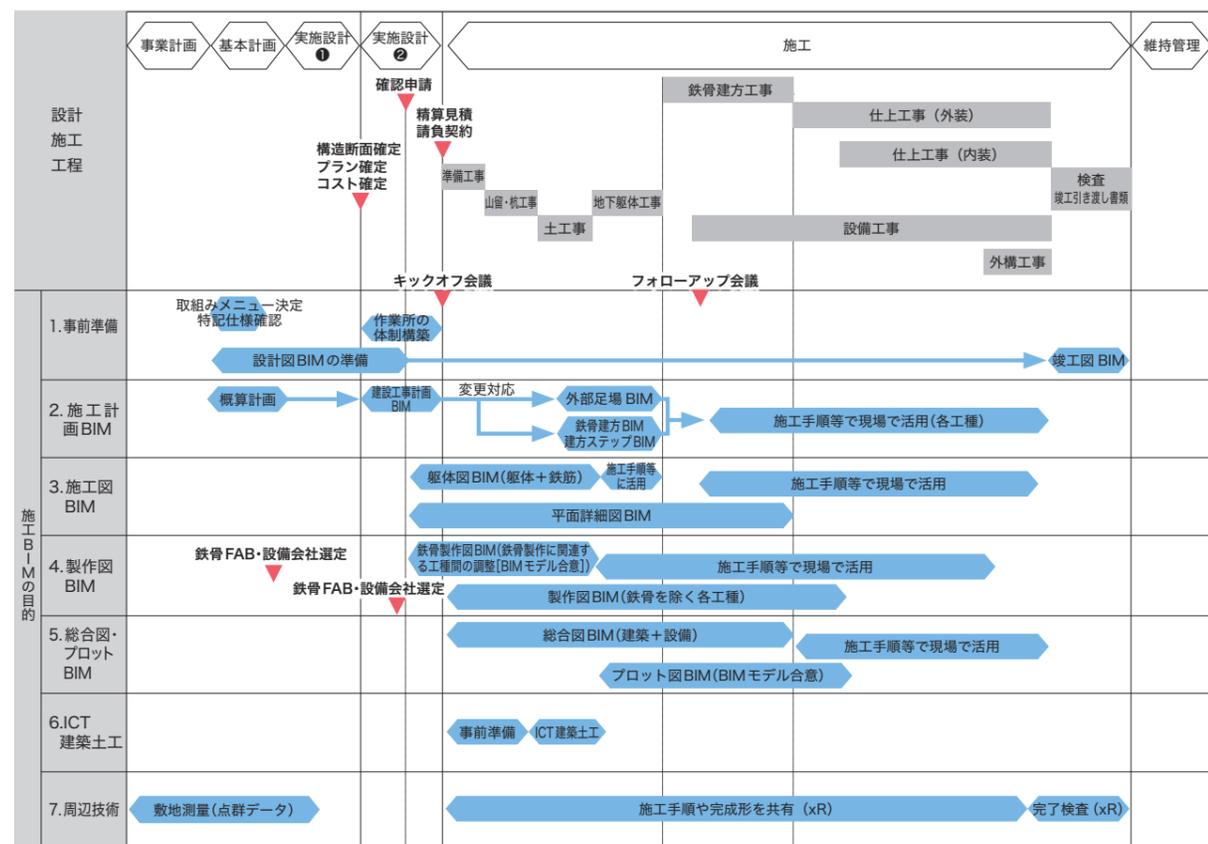
作業体制に合せ、ハード、ソフト両面で作業環境の検討をします。

⑥ 設計BIMとの連携

設計段階で作成したBIMモデルがある場合は、そのモデルが施工段階で活用できるかどうか検討します。

(4) キックオフ会議

事前検討から導き出された結果を基にBIMキックオフ会議を開催します。開催時には関連する工種の専門工事会社や設計者、場合により建築主の参加を促します。BIMの会議が単なるパフォーマンスではなく、実務において効果を楽しむためには、関係者が同じ方向を向くようにすることが望まれます。そのためには元請のリーダーシップや、専門工事会社などへの一方的な作業の押し付けにならないように配慮した会議体の運営方針を宣言することが成功につながります。



▲工事工程と作業工程



▲BIM調整会議の開催には事前準備が重要